

講演記録

スマホ時代のネットいじめ

KDDI 株式会社 CSR・環境推進室担当部長
大久保 輝 夫

ネット社会で欠けているもの

現代ではスマートフォンが普及し、高校生、中学生のほとんどがスマートフォンを持っている。それだけでなく、スマートフォンを持ち歩く小学生の姿も見られる。実際に小学校の5、6年生対象の講演を行った際の話である。講演終了時、何人かの子どもが「携帯を触って良いですか」と聞いてきたため、私は携帯を渡した。すると、彼らは実に巧みに私のスマートフォンを操作していた。こうしたことから、現代ではスマートフォンが急速に普及しているといえる。

講演会でよく話す事件がある。ある高校生が twitter で犯行予告をした。「有吉弘行の自宅を5秒後に放火する」。この高校生がつぶやいた内容は次の通りである。「警察関係者さん。後はお任せします。有吉さんの家があったので放火します。着火5秒前。」さて、この高校生が twitter でつぶやいた後、どうなっただろうか。これは脅迫罪に相当するため、15分もしないうちに警察官が彼の家を訪れたのである。

今、中学生や高校生、大学生がインターネットの世界で色々なトラブルを起こしている。その根本的な原因はなにかというと、私は次のように考える。残念ながら今の子どもたち、一部の大人も含むが、「想像力」が欠如している。twitter でこんなことをつぶやいたら、こんな結果になる、ブログでこんなことを書いたらこんな結果になる、メールでこんな内容を出したら受け取った人が嫌な思いをするだろう。つまり、先のことを予想する力、「想像力」が欠けているためにいろんな問題が起こるのである。私はインターネットの世界において、想像力が極めて大事な力だと思っている。インターネットは世界中から見られている。見ている人の中にはいろんな価値観、ものの考え方を持っている人がいる。したがって自分がネット上に発信した情報がどのように捉えられるか、どんな影響を与えるか、それを予測して使用しなければならぬのである。

ネットトラブルの実態

某県警本部に寄せられたネットトラブルを入手して、そのデータの分析を行った。ナンバー1は誹謗・中傷。それから、個人情報の掲載。この二つはだいたいセットにおり、個人名を出して、誹謗・中傷をすることが多い。そして、3番目は料金請求。特にアダルトサイト系の料金請求。これらがネットトラブルのベスト3である。誹謗・中傷の内容について、簡単に示す。

- ・娘の友達がブログに娘のプリクラ画像を貼り付け、「精神病」、「ヤリマン」等、誹謗・中傷する内容を書き込んでいる。
- ・息子は、同級生から悪口のメールを送信されたり、サイトに携帯番号を書き込まれたりしている。
- ・学校名の裏サイト（非公式サイト）で、実名やイニシャルを使って娘の悪口がやりとりされている。
- ・「アマーバピグ」の掲示板に、娘の名前や「男好き」、「死ね」等の書き込みがある。
- ・何者かが娘の名前を使い、「ニコニコ動画」に娘と同じ学校に通う人の悪口を書き込んでいる。
- ・コミュニティサイト上で、娘の同級生が娘の写真と一緒にフルネームや年齢、侮辱する内容の書き込みがある。

こんな事件は多々発生している。どのような学校においても、この手のトラブルはほとんど起きているのである。

「ネットいじめ」とはなにか

私は「ネットいじめ」という言葉について、はっきりした定義はないと考えている。簡単に言えば「パソコン、携帯電話等で、誹謗・中傷や嫌なことをされること?」。ここになぜ「?」をつけているのかというと、定義付けをしてもあまり意味がないと思うからである。定義づけをすると、かえってネットいじめの本質が見えなくなる気がする。

では、リアルないじめ(ネットを介さないいじめ)とネットいじめは違うのか。インターネットの特性のようなものであるが、次の4点が挙げられる。

- ・ 加害者を特定することが難しい
- ・ いじめの現状がほかの学校から見える
- ・ 24 時間攻撃が可能
- ・ 学校現場、先生方での把握が難しい

リアルないじめとネットいじめ、こういう違いがあるとしてもつながっていると思っている。ただ単にいじめのツールとしてネットが絡んでいるだけである。そのため、ネットいじめはリアルないじめと同じものだと考えている。これらがつながると、とんでもないことが起こるのである。

このような事例もあった。長野県の高校生が、自分がいじめている現場を動画で撮影し、動画サイト YouTube に「公開処刑」というタイトルで投稿した。とんでもない話である。問題は冒頭にも述べたが、スマートフォンの急速な普及により、ネットいじめの内容が変わってきていることである。このように、今後、いじめの内容が変わっていくだろうというのが私の考えである。

これまでのいじめとしては、「なりすましメール」、誰かになりすましてメールを送る。それから「プロフ」、自己紹介サイトでの誹謗・中傷。さらには「ブログ」での誹謗・中傷。あとは、動画サイト等に代表される「掲示板」等を利用したいじめが挙げられる。

スマートフォンを用いたネットいじめ

子どもはいったいスマートフォンで何をやっているか、だいたい予想がつくと思う。まずは、「ゲーム」、2番目は「YouTube」の閲覧、3番目は「twitter」である。なぜ「twitter」や「YouTube」を気軽に使用するかというと、これらがすべてスマートフォンのアプリであり、本体内にインストールされているためである。つまり、手軽にこういう機能が使えるようになっているのである。実際に、大阪のある小学校で講演を行う際、「twitter」を使ったいじめや、誹謗・中傷の書き込みといった実態を踏まえ、話をしてほしいという依頼もあった。

このほかにスマートフォンを用いて、子どもが何をやっているのか。おそらく多くの方々、特に大学生は使用していると思うのだが、「LINE」である。LINE でのいじめが今、多発している。

実際にあったネットいじめをいくつか紹介する。まず

は、「動画サイト」への投稿。群馬県のある中学校の男子生徒一人に対して複数で袋叩きをしている状況を撮影した動画を動画サイト「YouTube」に投稿したという事件があった。「twitter」によるいじめ。twitter に「デブの豚」などの誹謗・中傷が書かれ、ショックを受けてしまい、学校に行けなくなった。これは実際に私が講演を行った学校で起こった事件である。さらに、無料通話アプリ「LINE」によるいじめ。LINE では、グループをつくって友達を招待し、最大 100 人までのメンバーを集めてグループトーク(チャット)を行うことが可能である。例えば、私が大久保グループをつくって、100 人を招待してチャットをすることができる。しかし、100 人でやるとどうなるだろうか。きっと、しっちゃかめっちゃかになると思う。最初は他愛もないことを話していても、わっと盛り上がり、炎上することもあると思う。

子どもたちは夜遅くまで、LINE に書き込みを行っている。よく言われるものに、真夜中のラブレター理論というものがある。真夜中にラブレターを書いて、朝読み返すと自ら赤面してしまうような内容になっているというのだ。つまり、人間は本能的に夜眠るようなメカニズムになっているのである。ところが夜にそんなことをやっていると、アドレナリンが出てきて感情が高まってしまう。そのため、勢いで強烈な内容を書き込んでしまう。だから、私は子どもたちに話している。「あんまり遅くまでネットや書き込みをやるなよ」と。

LINE のトークでは、友達の悪口や先生の悪口の書き込みがなされている。さらには、グループのメンバーしか知らないから、どんどん書いてやるということで書く子どもたちもいる。ところが、こういう情報は外部に漏れてしまうのである。日常生活でもこのようなことはある。「ここだけの話だけどさ…」と言うが、ここだけの話ではなくなってしまう。どんどん広がってしまう。それと同じことなのである。

さらに、「はずし」、「追放」によるいじめというものも存在する。中学3年生のある男子は、チャットを楽しむために友達とグループを作った。しかし、このグループから「強制退会」させられた。強制退会というシステムがあって、気に入らないと思ったやつがいたら、だれでも簡単に強制退会することができる。しかも、誰が退会させたかわからないというシステムなのである。外された本人にとっては、非常に屈辱的だ。そして、彼は「誰が外したのか」と疑心暗鬼になって、学校に行けなくなっ

てしまった。

これを受け、LINE の会社は昨年の 10 月から、退会させたのは誰か表示することにした。あえて言うが、これは根本的な解決になっていないのではないだろうか。もしこれが表示されたら、「お前が外しただろう」ということになり、喧嘩へと発展する可能性がある。私は強制退会なんていうシステムをやめれば良いと思っている。

今、LINE の欠点ばかり話したが、長所もある。LINE はインターネット電話である。そのため、災害時には間違いなく繋がる。2 年前の東日本大震災の際、携帯会社が 90% の通話規制を行った。これは 10 回電話しても 1 回しか繋がらないということである。メールや twitter はよく使えたということで、災害時には無料通話アプリ、「LINE」や「カカオトーク」、「Skype」など、これらは比較的繋がりやすいものである。そのため、LINE が悪いのではなく、使い方が問題なのである。

アプリの普及によるネットいじめの変化

さらにこんな事件もあった。会社員が盗撮容疑で逮捕された。これまでの携帯電話は、盗撮を防止するため、カメラ機能を搭載する際にシャッター音になるようになっていた。ところが、スマートフォン向けのアプリで「無音アプリ」というのが作られた。これをインストールして、起動させたままシャッターを押すと、シャッター音が鳴らないのである。なぜこのようなアプリがあるのだろうかと思議に思った。開発者はこんなことを述べている。「眠っているお子さんを起こさずに撮りたい親御さんもいるでしょう」と。よく考えてもらいたい。子どもなんてシャッター音で起きない。こんなのは盗撮目的以外の何者でもないということである。このように色々なアプリの登場で、新たないじめが生まれるのではないかと思うのである。

以前よくあったいじめにこのようなものがある。ある男の子に携帯を使ったいじめが始まった。彼がトイレに行くと、何人かがついていき、横で用を足すふりして、カメラのシャッターを押す。ところがシャッター音が鳴ると、写真を撮っているのが本人にばれてしまうため、周りではほかの子どもが大騒ぎをしてその音をかき消すようにする。その雑音にまぎれて、写真を撮るのである。そして、撮った写真をメールに添付して、クラスでまわす。そのメールの内容も「このメールを 5 人に転送しないと、お前も同じ目に合う」というものだ。いわゆるチェーン

メールである。このようないじめも起きているのである。もし無音アプリを使ったら、音を消す必要もない。そのためちょっと変なところ、失敗したところを撮ってやろうといういじめも発生し始めるのではないのかなと私は危惧している。今どきのスマートフォンを持っている中学生・高校生は、この無音アプリをインストールしている。一体、何に使うのか疑問である。

ネットいじめ防止ツール

KDDI グループには、KDDI 研究所というのがある。ここではユニークな研究をやっている。例えば、視覚、聴覚、味覚、触覚、感覚といった五感、これをすべてフォローする研究をやっている。具体的にどのようなものかという、例えば、お母さんが夕食にカレーライスを作って、外で遊んでいる息子にメールを打つとする。そのメールにカレーの写真を添付する。そして、子どもにメールが届くと、メールからカレーのにおいが出てくる。すると子どもは「今日はカレーだ」と家に帰っていく。カレーライスの写真にお父さんの写真を載せてしまうと、「加齢臭」になるので帰ってこない。これは冗談だが、こんなユニークな研究を行っているのである。

本題は、これである。「ネットいじめ防止ツール」の紹介。実は総務省のお墨付きもあり、ネットいじめの防止ツールの開発をしている。

どのようなものかという、まずは教育機関での使用を視野に入れている。教育委員会や学校向けの支援ツールという形で、現在開発を進めている。非常に見にくい、把握できないネットいじめやネット上のトラブルといったものを、教師や学校などの教育機関に分かりやすくして提示しようというものである。

- 教育機関向けの支援ツール
 - ネットいじめやトラブルの対応に携わる教師らをサポート
 - 中学校・高等学校を対象
- ネットいじめやトラブルに関するネットの情報をわかりやすく提示



図1 ネットいじめ防止ツールの機能

これまでの教育現場の問題点として、生徒同士のネットいじめのトラブルがなかなか把握しづらいということがある。また、ネットいじめを防止するためのネットの見張りには、ものすごく大きな負担がかかる。今は教育委員会等々で監視しているが、これだけスマートフォンが普及すると、ブログ、twitterなどを監視しきれない可能性がある。このように子どもたちの人間関係がなかなか分かりにくいということで、先生方は適切な指導を行うことが容易ではない。そこで、この「ネットいじめ防止ツール」でできるにより、なかなか把握できていない、生徒のネットでの人間関係を把握し、生徒への指導に活用することができると思う。

図2はこのシステムのイメージ図である。まず、先生が気になる生徒の情報を入力する。そうすると、サーバーがウェブサイトを分析し、先生の所に分析されたデータが来る。このような仕組みになっている。

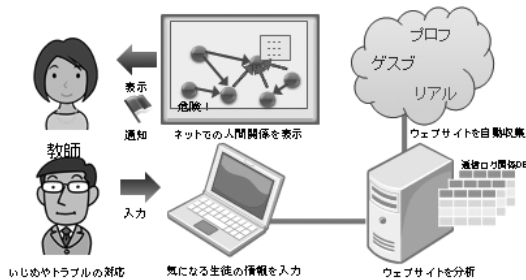


図2 ネットいじめ防止ツールの利用イメージ

ちょっとこれは古いかもしれないが、生徒同士のコミュニケーションに利用される「プロフ」、「Facebook」に「リアル」といったもの、これを例にとって考えると図3のようになる。

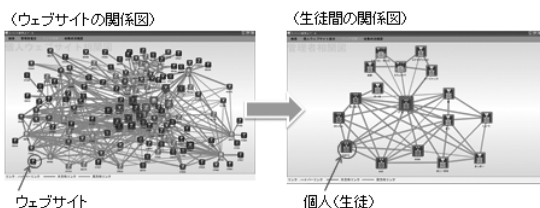


図3 ネットいじめ防止ツールの画面

図3左に示すように、ウェブサイトの所有者は誰なのか、第三者には非常に分かりづらい。このいじめ防止ツールは、ネット上にある無数のサイトについて分析を行い、

生徒のネットでの人間関係を表示するというものである。そしてさらに、これを計算して図3右のように表示する。以下に実際の分析結果を示す。例えば、A高等学校の生徒の人間関係を示すと図4のようになる。

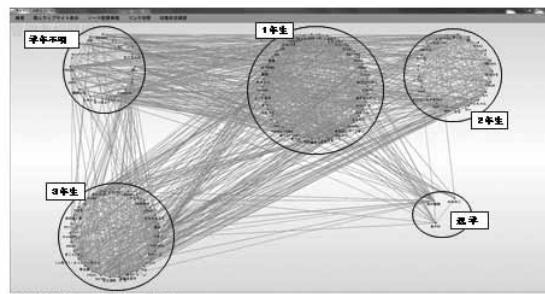


図4 A高等学校生徒の人間関係

他校との人間関係を表示すると図5のような関係になる。

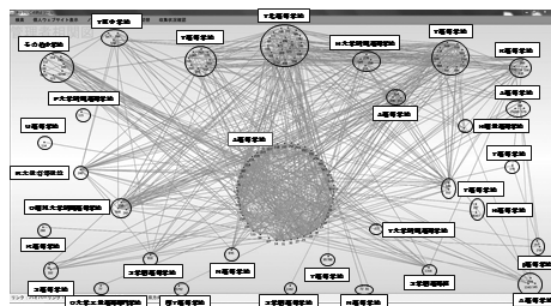


図5 A高等学校生徒の他校との人間関係

これはまだ研究段階で、これからどのように展開するかは分からないが、可能性としてはネットいじめに早期対応できるのではないかと考えている。それから情報モラルの育成にも役立つのではないかと考えている。

ただ、問題点もいくつかある。まず、子どもたちのプライバシーの保護をどうするかという問題である。それと教師の悪用。このような問題点が挙げられる。いずれにしても、ここ2、3年を目途に何とか完成されて、なんらかの形で世の中に出したいというのがKDDI研究所の望みである。

スマートフォン 18 のルール

最近色々な学校を回って実感していることがある。何かというと、家庭での携帯・スマートフォンのルールの重要性である。ルールのある生徒は、ネットいじめの被害者、加害者になりにくいことを実感している。

ある調査でも、このような結果も出ている。これですべてのネットいじめが片付くと思っていないが、家庭でも携帯・スマートフォンのルールを作る必要性は非常に高いのではないかと考えている。高校生くらいになると、「ルールなんて作らないよ」という人もいるかと思うが、親から通信料を負担してもらっている以上、家庭でのルールが必要であると考えます。

なぜルールがあるネットいじめの被害者、加害者になりにくいかというと、やはりルールがあることにより、携帯・スマートフォンと接する時間が制限される。それから、ルールがある家庭の親子のコミュニケーションは比較的円滑に働いている。何かあった時に親に相談できる環境であるし、ルールを作ることで規範意識なども醸成することができる。

最近話題になっているのが、スマホ 18 のルールである。マサチューセッツ州のあるお母さんが 13 歳の息子にクリスマスプレゼントとして iPhone を送った。その箱の中には彼女の作った使用契約書、ルールも入っていた。(以下にその内容を記載。)

1. これは私の携帯です。私が払いました。
あなたに貸しているものです。
2. パスワードは必ず私に報告すること。
3. これは「電話」です。なったら必ず出ること。礼儀良く「こんにちは」と言いなさい。発信者が「ママ」か「パパ」だったら必ず出ること。絶対に。
4. 学校がある日は 7:30pm に携帯を私に返却します。週末は 9:00pm に返却します。携帯は次の朝の 7:30am まで電源オフになります。友達の親が直接出る固定電話に電話できないような相手なら、その人には電話も SMS もしないこと。自分の直感を信じて、他の家族も尊重しなさい。
5. iPhone はあなたと一緒に学校には行けません。SMS をする子とは直接お話ししなさい。
6. 万が一、トイレや床に落としたり、無くしたり、破損させた場合、修理費用は自己負担です。家の芝を刈ったり、ベビーシッターをしたり、お年玉でカバーしてください。こういうことは起こります。準備しててください。
7. このテクノロジーを使って嘘をついたり、人を馬鹿にしたりしないこと。人を傷つけるような会話に参加しないこと。人のためになることを第一に考え、喧嘩に参加しないこと。
8. 人に面と向かって言えないようなことをこの携帯と SMS やメールでしないこと。
9. 友達の親の前で言えないようなことを SMS やメールでしないこと。自己規制してください。
10. ポルノの禁止。私とシェアできるような情報をウェブで検索してください。質問などがあれば、誰かに聞きなさい。なるべくわたしかお父さんに聞いてね。
11. 公共の場では消すなり、サイレントモードにすること。特にレストラン、映画館や人と話すときはそうしてください。あなたは失礼なことをしない子です。iPhone がそれを変えてはいけません。
12. 他の人にあなたの大事なところの写真を送ったり、もらったりしてはいけません。笑わないで。あなたの高知能でもそういう事をしたくなる時期がやってきます。とてもリスクなことだし、あなたの青春時代・大学時代・社会人時代を壊してしまう可能性だってあるのよ。よくない考えです。インターネットはあなたより巨大で強いよ。これほどの規模の物を消すのは難しいし、風評を消すのもなおさら難しい。
13. 写真やビデオを膨大にとらないこと。すべてを収録する必要はありません。人生経験を肌身で体験してください。すべてはあなたの記憶に収録されます。
14. ときどき家に携帯をおいて出かけてください。そしてその選択に自信を持ってください。携帯は生き物じゃないし、あなたの一部でもありません。携帯なしで生活することを覚えてください。流行に流されない、自分だけが取り残されていると思ってしまう不安感を気にしない器の小さい男にならないでください。
15. 新しい音楽、クラシック音楽、あるいは全員が聞いている音楽とは違う音楽をダウンロードしてください。あなたの世代は史上最も音楽にアクセスできる世代なのよ。この特別な時代を活用してください。あなたの視野を広げてください。
16. ときどきワードゲームやパズルや知能ゲームで遊んでください。
17. 上を向いて歩いてください。あなたの周りの世界をよく見てください。窓から外を覗いてください。鳥の鳴き声を聞いてください。知らない人と会話をもつてみてください。Google 検索なしで考えてみてください。

さい。

18. あなたは失敗する。その時はこの携帯をあなたかたら奪います。その失敗について私と話し合います。また一からスタートします。あなたと私はいつも何かを学んでいる。私はあなたのチームメイトです。一緒に答えを出していきましょう。

1に関連して、私はよく保護者の方に次のように話す。お子さんで「ルールなんて面倒だ。」という子どもがいると思う。そこはこういう論法で攻めてもらいたい。「あなたの携帯・スマホはあなたの物じゃありません。私が一時的に貸し与えている物でしょう。貸し与えている以上、そこに約束があって当たり前でしょう。」要はルール作らなきゃ、契約しないということである。

2に関して、今どきの子どもは親に見られないようにスマートフォンにパスワードをかけている。この前、びっくりする子どもがいた。他人のスマートフォンのパスワードを読み取るのである。どのようにして読み取るか。画面が汚れているところを探して推測するのである。皆さん、スマホの画面はいつもきれいにしておきましょう。

4についてだが、要するに使用する時間をきちんと決めておくということである。ここ、「友達の親が…」から重要である。これに関連することで、びっくりするような話があった。ある中学校のスクールコーディネーターの方に聞いた。若い先生は、固定電話からかかってくると怖くて出られないそうだ。どうということかと言うと、その先生は、携帯電話をよく使っており、家で固定電話に出る習慣が全くない。ただし、携帯電話する相手は普段から気楽にやり取りできる相手だけであり、全く知らない人に電話するとか、全く知らない人から電話がかかってきた時は出ることができないそうだ。

6の修理費は自己負担。自己責任の練習と言えよう。7は誹謗・中傷はやめなさいよということである。8は実感できる内容と思うのだが、メールとか掲示板には面と向かって言えないことを書いてしまうのである。子どもは特に。9の自己規制してくださいということは、自己管理のことである。このようにこの18のルールには人生の教訓のようなものが書かれている。

11に関して、一つ皆さん方に言いたいことがある。ここは1つのポイントである。「画面の奴隷になった大人たちへ」。いまだに違和感を覚えているのだが、電車内では多くの人が座るなり、立ったままスマホを見ている。

これは、「スマホ依存」や「スマホリック」と呼ばれている。優先席付近でない限り、それは別に良いと思っている。私が一番許せないのは、「ながらスマホ」である。私は色々なところに出かける。例えば、羽田空港とか色々な駅・ホームを歩いていると、「ながらスマホ」をやりながら歩いている大人がいるのである。彼らはこちらの方がよけてくれると思っているような感じがする。何が言いたいかということ、「なんと想像力がない大人たちだ」と。「人に迷惑をかけているということくらい、わからないかね。」ということである。

ここで一つ、インド独立の父といわれているガンジーの話を紹介する。ガンジーのところにある母親が自分の息子を連れてきた。その息子さんは砂糖が大好きで、毎日のように砂糖を食べ、肥満になってしまった。母親が何を言っても息子は何も聞かないので、母親はガンジーに論してもらおうと考えた。そんな母親に対し、ガンジーは「2週間後にまた来てください。」と言った。母親は「なぜだろう。」と思いながらも、2週間後に再度、ガンジーを訪ねた。そして、ガンジーは息子を論して、それ以来、彼は砂糖を食べることをやめた。母親は不満を覚え、ガンジーに「なぜ最初に来たときに論してくれなかったのか。」と尋ねた。ガンジーはそれに対してこう答えた。「あなたは何も分かっていない。私は2週間前、砂糖を食べました。」

つまり、自分が今の大人で「スマホ依存」や「ながらスマホ」をやっている人は根本的な社会的ルールを無視しているということである。そういう人間、そういう親が子どもに対して「ネットいじめをやめろ」という資格があるのかということだ。私はネットいじめの問題について、大人も基本的なルール・マナーについては今一度、きちんと考え直す必要があると思っている

16は、携帯なしで生活することを覚えてくださいということ。私、たまに高校生に「休携帯」、要は一日一切携帯を使わない日をもうけるように話す。多分これを一日やると、もしかすると、ものの見方・考え方が変わるかもしれない。

17についてだが、ずっとスマートフォンを使っていると、スマートフォン顔になるそうだ。顔が四角くなるというわけではない。下を向いていると重力の影響でたるみが出てきて、老けてきてしまうということである。また、Google 検索なしで考えてください。これは重要な指摘であると感じている。今、学校でもインターネットを使っ

ていようなものを調べる学習がある。悪くはないと思うのだが、あまりそれをやると子どもから考える力を奪ってしまうように思われる。インターネットの情報はかなり断片的であり、結構難しい言葉を使用することもある。子どもは、わけもわからずに情報をそのままコピーして、ペーストする。情報について、自分では全く考えない。そういう傾向も出てくるのではと予測している。Google検索、私はほどほどにした方が良いと思っている。

最後の18について。要はコミュニケーション能力の醸成。非常にべたな話だが、コミュニケーションって大事ということである。特にコミュニケーションで大事なことは、「聴くこと」である。もちろんコミュニケーションには、いろいろな方法がある。どうもコミュニケーションというと「話すこと」ばかり重点をおく人がいる。でも私は、コミュニケーションは「聴くこと」だと思っている。聴くことによって他者を理解することができるということである。そして、他者を理解することができれば、相手の気持ちも理解できるということである。要するに、ネットいじめは、そもそもいじめられた人の気持ちを想像していない。理解していない。そんなところから色々な問題が出てくると思っている。そのため、私はコミュニケーション能力、「聴くこと」の重要性を非常に重視したいと思っている。最もこれは、言うは易しである。私もいつも反省している。あまり人の話を聴いていないのである。人間って答えるために聞いている。例えばこんな感じ。友達が「この前見た映画、面白かったね。」という話を始めたら、それを聞いているとき、皆さんの頭の中はどうか。「映画の話できたか。じゃあ、あの映画の話を返そう。」と答えようとして聞いていると思う。ここに私は一番の問題があると考え。相手の話を理解しようとして聴いていない、答えようとして聞いている。「聴くこと」の重要性。このことをこれからも子どもたちにどんどん伝えていきたいと思っている。

ルール作りの3つのポイント

ルール作りのポイントには、次の3点である。まず、具体的で守りやすいルールを作ること。例えば、「夜10時以降は携帯電話を親に渡します」。そして、子どもにルールを宣言させること、これが重要である。子どもに宣言させることで、子どもの自主性と自立心を育てていければと考える。3番目。ルールを二重構造にしておくこと。ルールを守れなかった場合のルール、メタルール

を決めておくことである。これは罰則ではなく、約束を破った時に自ら責任をとるためのものだ。これは、2番目のルールと関連しており、非常に重要である。2番目で子どもはルールを守ると宣言した。しかし、これを破ってしまった。責任を取らないといけない。これは、自己責任の原則である。自己責任というのは大人でも難しいが、こういったルールを通して、徐々に自己責任を醸成していく必要だと思う。そのためこういった携帯・スマホのルールというのは私に言わせると、子どもをがんじがらめに縛るのではなくて、こういったものを通じて規範意識や子どもの人格的な成長を促すといったように理解している。子どもをネットいじめの被害者・加害者にしないためにやっぱりスマホを与えるのではなくて、後々きちんとフォローしていただきたいということである。「あなたのアメピグ見せてごらん。」といえるくらい、円滑なコミュニケーションを図っていただきたい。

ネット世界で求められる4つの力

子どもたちに身につけてほしい力。ある意味ネット社会・情報社会を生き抜くために必要な力が4つある。まずは「気づき」。例えば、架空請求メール。あんなメールが来た時に「ちょっと待てよ。これ、おかしいな。」と気付く。そういった気づきが必要である。気が付かないと先の行動に結びつかないのである。それから冒頭に述べた「想像力」。こういうことをするとこうなるということを考えること。さらにインターネットの情報は非常に多様である。良い情報、悪い情報を判断する力、「判断力」。そしてこれも大切である。「自制力」。我慢する力。「あの野郎。陥れるためにちょっと掲示板に書いてやろう。」というのはちょっとまずいということだ。このような力を身につけてもらえればと思う。

こういう力を身につけるためにはどうすればよいか。先生から良く質問が来る。やっぱり大事なことは、普段から考える習慣をつける。これが非常に大事だと考える。いろいろ考えることにより、気づきや想像力といったものが生まれてくるのではないかと思う。考える力をつけていくのである。

おわりに

最後に、私が好きな言葉を紹介する。「人に魚を与えれば、一日は食べることができる。魚釣りを教えれば、一生食べさせることができる」。まさにこれは教育の本

質を示した言葉である。要は「情報リテラシー」なんてよく言われる。スキル・テクニックはもちろん大事だが、根っこの部分「気づき」「想像力」「判断力」「自制力」と4つの力がしっかりと根付いていて、スキル・テクニックが生きていくのである。最近起きたなりすまし事件、30歳の犯人は捕まったが、彼はパソコンやネットのスキルが高かったと思う。ところが根っこにある考え方、根っこの部分が曲がっていたのではないだろうか。

(文責 教育学研究科2年 樋口麻美)